企画・制作：熊野林星会

●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。

●誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

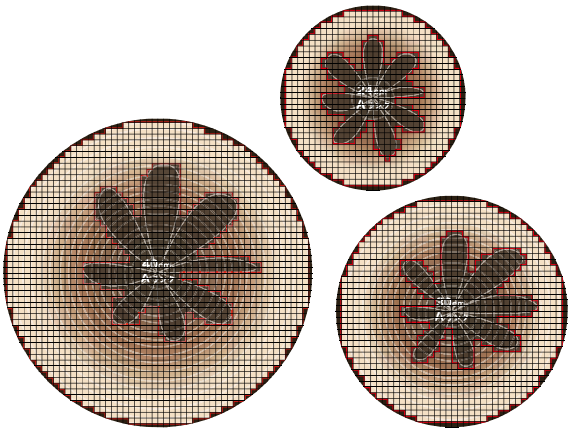
●プラスチック袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。

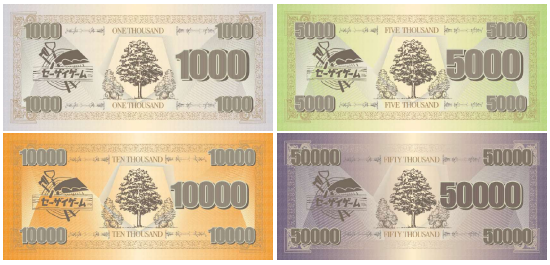
●思わぬ事故の恐れがありますので、ご使用後は3才未満のお子様の手の届かないところに保管してください。

ゲームの概要

プレイヤーは製材会社を経営し、お金を稼ぐことを目指します。
いかに品質の良い原木を落札し、高価な材木を作り出せるかが
勝負の分かれ目となります。製材王を目指しましょう。

内容物





■ 原木ボード……18 枚（全 9 種）

■ 木取りカード……228 個（全 7 種）
- 柱（3 タイプ）:36 個
- 梁 :12 個
- 階段 :24 個
- 窓枠 :48 個
- 床板 :60 個
- 垂木 :24 個
- 鴨居 / 間柱 :24 個

■ 紙幣（単位：円）
1000 円 …… 80 枚
5000 円 …… 12 枚
10000 円 …… 30 枚
50000 円 …… 6 枚

■ チーム札……6 個

■ ルールブック……1 部（本書）

■進行資料（公式サイトからダウンロード）

■仕入伝票・売上伝票
（公式サイトからダウンロード）

ゲームの準備

❶ 参加者を最大 4〜6 チームに分けます。
1 チームは 3〜4 人が理想ですが、2〜3 チームしかできそうにない場合は 1〜2 人のチームがいてもかまいません。
※各チームには、十分なプレイスペースが確保できるようにしてください。

❷ 各チームに決められた数の木取りカードをチームごとに配ります。
（梁 2 個、柱 3 タイプを各 2 個、階段 4 個、窓枠 8 個、床板 10 個、垂木 4 個、鴨居 / 間柱 4 個）

❸ チーム札・仕入伝票・売上伝票を各チームに配ります。
枚数は 【競り本数】÷【チーム数】+4 枚 ずつが目安です。

❹ 各チームに 30000 円のお金を配ります。（1000 円 ×10、5000 円 ×2、10000 円 ×1）

❺ 制限時間を決めます。

❻ 原木ボードの競りを行うファシリテーターと、換金を担当するファシリテーターを決めます。

❼ チーム名を決めます。

ゲームの目的

このゲームは、競りで仕入れた原木を様々な材木に変える木取りを行い、換金してお金を稼ぐことを目指します。ゲーム終了時に一番お金を稼いだチームの勝利となります。

ゲームの流れ

・各チームが行うアクションは主に「原木ボードの競り」と「木取り」の 2 種類です。

・このゲームには、手番という概念はなく、各チームが好きなペースでこれら2つのアクションを行います。

・ファシリテーターは「競り」を担当する人と「換金」を担当する人に分かれ、各々が別々に進行します。

原木ボードの競り

・原木ボードを落札できるアクションです。
・各チームは、原木ボードを落札しない限り「木取り」を行うことはできません。
・原木ボードの競りは、ファシリテーターが進行を行います。
・ファシリテーターは、進行資料に沿って競りを始めます。

※進行資料には「初期価格」「ランク」「大きさ」「原木ボードの写真」が記載されています。

大きさ:24
ランク:B
初期価格4000

いまセリに
かかっている木

つぎの木

初期価格	ファシリテーターが最初に値付けする原木ボードの価格です。
ランク	フシの大きさを示します。S＞A>B の順でフシが小さく、 売れる材木を作りやすくなります。 ※ランクは、競りの段階では公開しません。写真を見て判断してもらいます。
大きさ	24cm、30cm、40cm の 3 種類があります。 大きいほど、たくさん材木を作れます。
原木ボードの写真	ランクが高いかどうかを判別するための写真です。 「いま競りにかかっている木」は、現在競りが行われている原木です。 「つぎの木」は、次に競りが行われる予定の原木です。

❶ ファシリテーターは、競りを行う原木ボードの初期価格を全チームに伝わるように発表します。その際、その金額で落札を希望するチームはチーム札をファシリテーターに見えるようにあげます。

※落札を希望しない場合は、チーム札をあげないようにします。
チーム札をあげていた場合は下げます。

※プレイヤーは希望落札金額を宣言することはできません。
ファシリテーターが宣言した金額で落札するかどうか判断します。

❷ ファシリテーターは、各チームがチーム札をあげているかどうかを確認します。
あげられているチーム札の数により、ファシリテーターは対応が変わります。

ケース①: 2 チーム以上がチーム札をあげている場合

❶ ファシリテーターは、現在の金額に 1000 円をプラスした金額を宣言します。その金額でも落札を希望するチームはチーム札を上げ続け、高いと判断した場合はチーム札を下げます。

❷その後、チーム札の様子を見ながら、【ケース②: 1 チームのみがチーム札をあげている場合】になるまで、金額を上げ続けます。

❸ 競りの途中からチーム札をあげたり、あげ直すこともできます。

【注意】

もし、複数のチームが同時にチーム札を下ろし、チーム札をあげているチームが 0 になった場合、現在の金額よりも 1000 円小さい金額を宣言し、再度、競りを始めてください。それでも同様の結果になった場合、落札者はいないものとし、次の原木ボードの写真に進み、新たな競りを始めてください。

ケース②: 1 チームのみがチーム札をあげている場合

最後までチーム札をあげていたチームが、落札した金額をファシリテーターに支払い、落札した原木ボードを手に入れます。その後、落札価格と原木の大きさ、ランクを仕入伝票に記入してください。

【重要】

各チームは、競り落とした原木ボードを「木取り」して換金するまで、次回以降の競りに参加することはできません。

【ファシリテーターの注意事項】

・ファシリテーターは誰かが落札するまで、「ランク」の情報をプレイヤーに教えてはいけません。

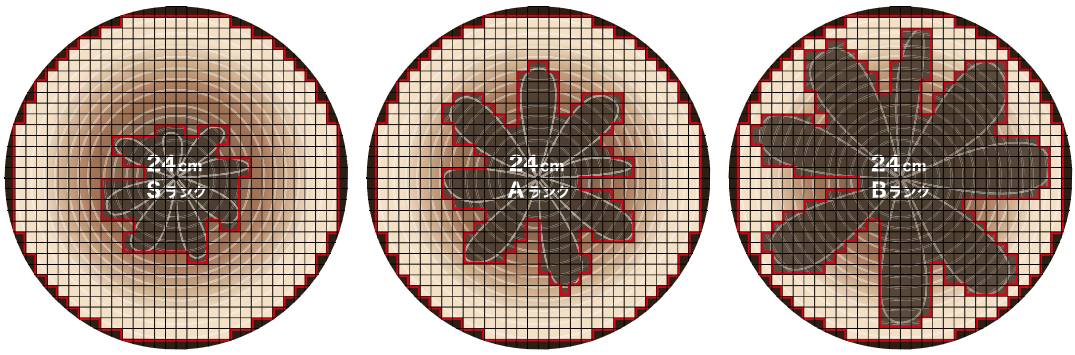
・それぞれの原木ボードは、同じサイズ・同じランクのものが 2 枚ずつしかありません。基本は進行資料に沿って競りを進めるのが望ましいですが、慣れた段階で資料とは別に競りを行う際は、原木ボードの枚数に注意して競りを進めてください。

・ファシリテーターは、原木ボードの競りに参加できるチームが 1 チームのみの場合、原木ボードの競りを始めることはできません。参加できるチームが 1 チームかどうかの判別が難しい場合「声をかける」などして、確認を行ってください。

原木ボードのランクについて

・原木ボードには、S、A、B の 3 種類のランクがあり、S>A>B の順に価値が高くなっています。ランクが高い原木ボードほど、高値の「木取り」ができます。

・競りの時には明確にランクが公開されていないため、写真の情報から、原木ボードのランクを推測する必要があります。



原木ボードを落札したら

・原木ボードを落札したチームは「木取り」を行います。
・「木取り」を行うことで、落札した原木ボードを換金することができます。

【重要】

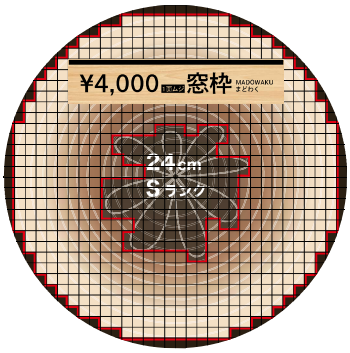
繰り返しになりますが、原木ボードを「木取り」して換金が終わるまで、原木ボードの競りに参加することはできません。
※原木ボードを同時に 2 枚以上持つことはできません。

木取りのルール

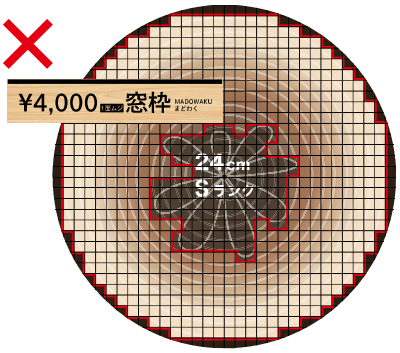
「木取り」は、各チームに配られた木取りカードを用いて行います。

木取りカードにはそれぞれ売却価格が決められており、置き方によって価格が変わります。

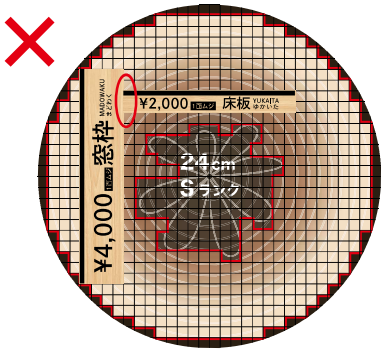
落札した原木ボードには、マス目が記載されていますので、それに合わせて、原木ボードの上に木取りカードを置いていきます。



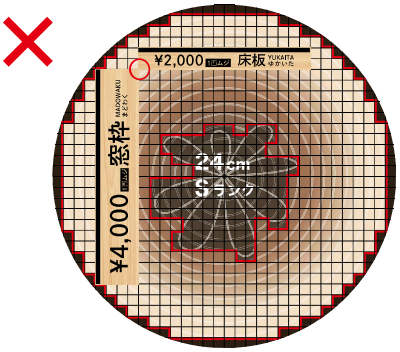
木取りカードを原木ボードからはみ出るように置いてはいけません。



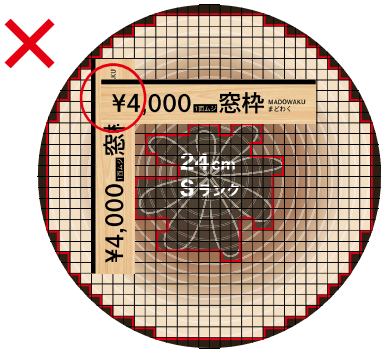
木取りカード同士を隣接して置くことはできず 最低でも１マス分、離す必要があります。



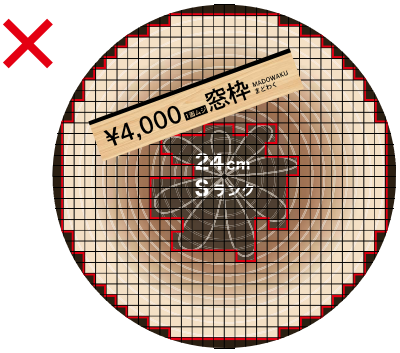
斜めに接して置くこともできません。



木取りカードは重ねて置くことはできません。



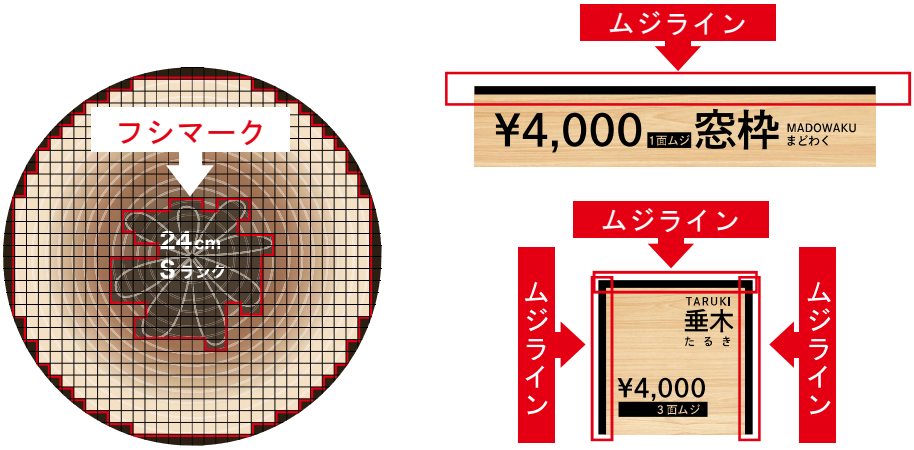
木取りカードはマス目を無視して置くことはできません。

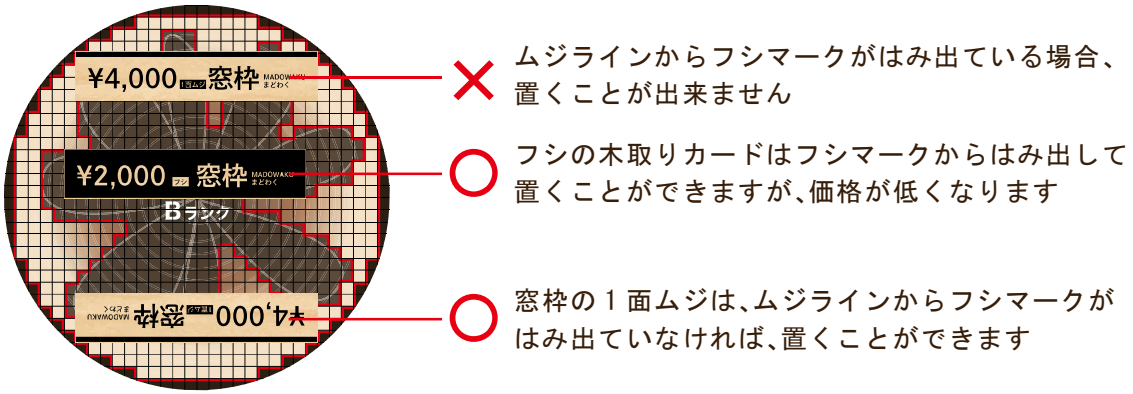


木取りカードの価格「節（フシ）と無地（ムジ）」

木取りカードには、ムジライン（黒線）が描かれており、置き方によって「フシの価格」もしくは「ムジの価格」に変わります。

原木ボードにはフシマークが描かれており、
◇置いた木取りカードのムジラインからフシマークがはみ出している場合：フシの価格
◇置いた木取りカードのムジラインからフシマークがはみ出していない場合：ムジの価格
になります。





✕ ムジラインからフシマークがはみ出ている場合、置くことが出来ません

○ フシの木取りカードはフシマークからはみ出して置くことができますが、価格が低くなります

○ 窓枠の１面ムジは、ムジラインからフシマークがはみ出ていなければ、置くことができます

木取りカードによっては、ムジラインが複数あるものもあります。複数のムジラインがある場合、それら全てにおいて、フシマークがはみ出ないように置かなければいけません。
例：複数のムジラインがある木取りカード

木取りが完成したら

・木取りが完成したチームは、売上伝票に材木の数量、金額を記入します。

・木取りカードをのせたままの原木ボードと売上伝票を、換金を担当している ファシリテーターのところまで持っていきます。

・換金を担当しているファシリテーターは、チームが持ってきた原木ボードにのっている
木取りカードと売上伝票をチェックします。

チェック項目

- ☑ 木取りカード同士が隣接していないか
- ☑ 木取りカードが原木ボードからはみ出していないか
- ☑ 木取りカードの「フシ」と「ムジ」は正しく置かれているか
- ☑ 木取りカードが重ねて置かれていたり、マス目を無視して置かれていないか

・上記のチェックでミスがあれば、そのチームは修正しなければいけません。

・ミスが発覚し、木取りを修正する場合、一度テーブルに戻り木取りをやり直した後、
改めて換金の列の最後尾に並びます。

※ミスが発覚しても、その分が換金に反映されない、または換金額が安くなることを
了承する場合は、そのまま換金額を受け取ることができます。

・ファシリテーターはチェックを終えたら合計金額を計算し、その金額を渡します。

・金額を渡した後、原木ボードはファシリテーターが回収します。
木取りカードはチーム側が回収し、自分のテーブルに戻り、次の競りに参加できます。

※木取りカードは再利用できます。

ゲームの終了と勝敗

・残り時間がわずか(残り 5 分程度)になったら、ファシリテーターは「次の原木ボードが
最後の 1 枚です」と全チームに伝わるように宣言し、最後の競りを行います。

・最後の競りが終わったら、原木ボードが手元にあるチームは「木取り」を行い、換金します。

・全チーム、手元にある金額の合計を計算します。

・金額が一番多いチームが優勝となります。一番多い金額のチームが複数ある場合、
その全てのチームが優勝となります。2 位以降は、金額の合計が多い順に決まります。

FAQ

Q.　原木ボードを持っているのに落札した場合、どうなりますか？
A.　ペナルティとして、現在持っている全ての原木ボードを換金せずにファシリテーターに返します。

Q.　木取りしたい木取りカードが足りなくなった場合、どうすればいいですか？
A.　木取りカードは限られた数しか使えないので、手元にある木取りカードを使ってください。

Q.　原木ボードを落札して支払うお金が足りなかった場合、どうすればいいですか？
A.　原木ボードをファシリテーターに返します。また、ペナルティとして 1000 円を支払い、次回の競りに参加することができなくなります。
※この行為を 2 回やった場合、そのチームは失格となります。

Q.　原木ボードを同時に 2 枚以上持たなければ、何枚でも落札してよいですか？
A.　はい。

Q.　お金が足りない場合、競りに参加することはできますか？
A.　できません。そうならないように努力しましょう。